

第22回全日本大学男女選手権大会

昭和62年8月15日～17日
山口県・宇部市東部体育広場

大会を顧みて

日ソ協記録委員 遠藤敏則

第22回全日本大学男女選手権大会は、「緑と花と彫刻のまち」山口県宇部市の宇部市東部体育広場で、8月15日から17日までの3日間、好天にも恵まれ盛大に開催された。

結果は、男女共に日本体育大学が優勝した。男子は17回目(2年連続)、女子は13回目(2年振り)の優勝である。

この大会、男子28、女子18、計46チームの精鋭が全国各地の激しい予選を勝ちぬいて、残暑厳しい宇部に集まった。昭和41年に開港された宇部空港から車で5分の至近距離に位置し、ゆったりと4面も取れるこの広場は、元宇部炭鉱の社宅の跡地に作られたそうで、市営アパートに囲まれており、しかもJR常盤駅から近くバスの便も良いということで見物人でもぎわった。日外野の方まで見物人でにぎわった。大会事務局が宇部市教育委員会保健体育課内にあることから想像がつくように、市保健体育課の職員を中心とした市役所の方々の全面的な協力もあ

って、県協会・市協会のリーダーの指導力が大いに発揮されて、この大会を盛大に、しかも素晴らしく実りあるものにしたようである。

この大会から、(財)日本ソフトボール協会から優勝旗と優勝杯、そして準優勝杯が授与されることになり、開会式の中で、専務理事の黒木幹夫氏から全日本大学連盟会長岡田俊彦氏に贈呈された。また、本年度から個人賞も設定されることになり、引き続き贈呈された。それは、①最優秀監督賞 ②最優秀選手賞 ③最優秀打撃賞 ④最優秀投手賞の4賞で、男女それぞれにトロフィーが与えられることになった。このため、チームの名誉の為と自己の実力発揮の為に大いにハッスルプレーをし、またそれが認められることになった。

初の名誉ある受賞者は別記の通りであるが、特に打撃部門で、国士館大学の榊原秀樹選手が18打席15打数9安打、打率9割と抜群の高打率を挙げ、しかも本塁打2本、二塁打1本と長打力も持っており、打撃賞をすんなりともものにした。

最優秀投手賞の大村明久投手(日本体育大学)は、4試合に登板して27回投げて奪三振32は、1試合奪三振平均8で特に目立った。

女子では、最優秀投手賞に輝いた小西真紀子投手(日本体育大学)は、3試合22回投げて自责点0で防御率0・00と低く、被安打8と少ないのが目を引いた。しかし、日本女子体育大学の柳下栄誉投手も素晴らしい好投手で、3試合24回投げて、被安打16こそ小西より多いものの、奪三振19はずば抜けていた。

女子の最優秀選手賞に輝いた里見尊子選手(日本体育大学)は、準決勝の対東京女子体育大学戦で3回裏に目の覚めるような弾丸ライナーの本塁打を打ち、それがこの試合唯一の得点となり、日本体育大学に勝利をもたらしたことが大いに印象深く、名誉ある賞を手にすることができた価値ある一発だった。

本大会は観衆が多かったことが特筆に値する。お盆休みということと、住宅地から至近距離に会場があることも理由の一つであろうが、それよりも何よりも地元の人々の話を聞くと、この市はソフトボール熱がものすごく高く、ソフトボール人口の割合が極めて高いそうである。山口県の権代理事長の話によると、この県での全国大会の開催回数は17回目で、これは長野県について全国で2番目に多いそうである。こ

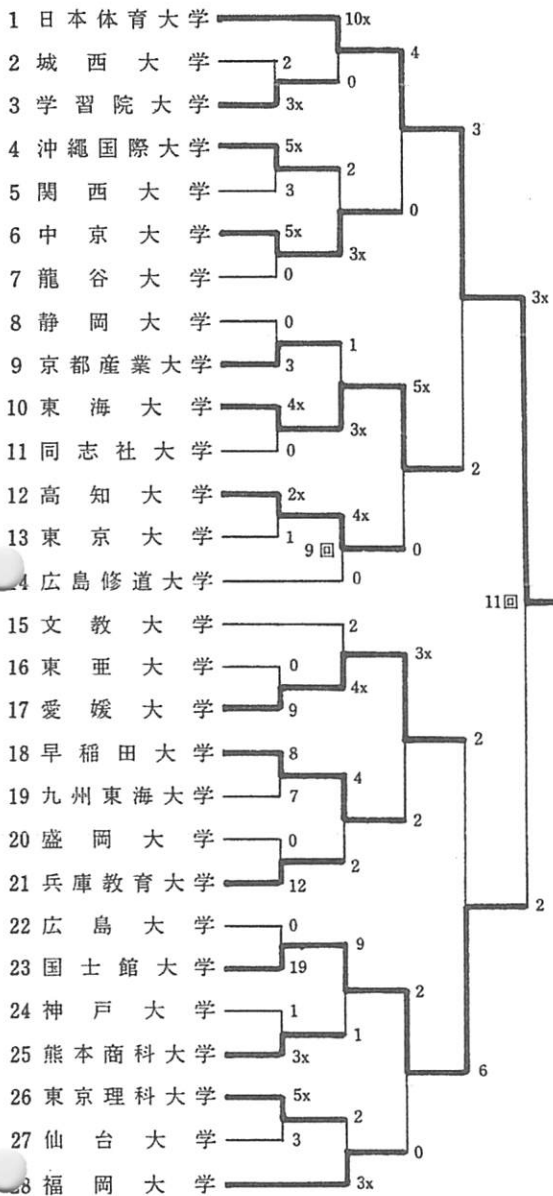
の実績からみても、いかにソフトボール熱が高く、地元の協力が大きいかかわかると思う。

とにかく地元協会役員、市職員、そして補助員の高校生等、役員の数も非常に多く、しかも一人一人が洗練されて機能を果たしていた。また自己の持ち場・任務・役割分担を熟知して他の係との連携を密にしており、縦・横の關係が実にスムーズに行われていた。特に記録員と広報の連携は抜群にうまくいっていた。日頃の指導と訓練が行き届いていることと、全国大会等大きい大会に慣れている証拠であろう。この大会は本当に大盛況であった。数ある全国大会の中でも、特に目立つて立派な大会であったと思われる。

- ◎最優秀監督賞
男子 山下 修(日本体育大学)
女子 下奥 信也(日本体育大学)
- ◎最優秀選手賞
男子 吉永 裕之(日本体育大学)
女子 里見 尊子(日本体育大学)
- ◎最優秀打撃賞
男子 榊原 秀樹(国士館大学)
女子 鈴木 真美(東京女子体育大学)
- ◎最優秀投手賞
男子 大村 明久(日本体育大学)
女子 小西真紀子(日本体育大学)

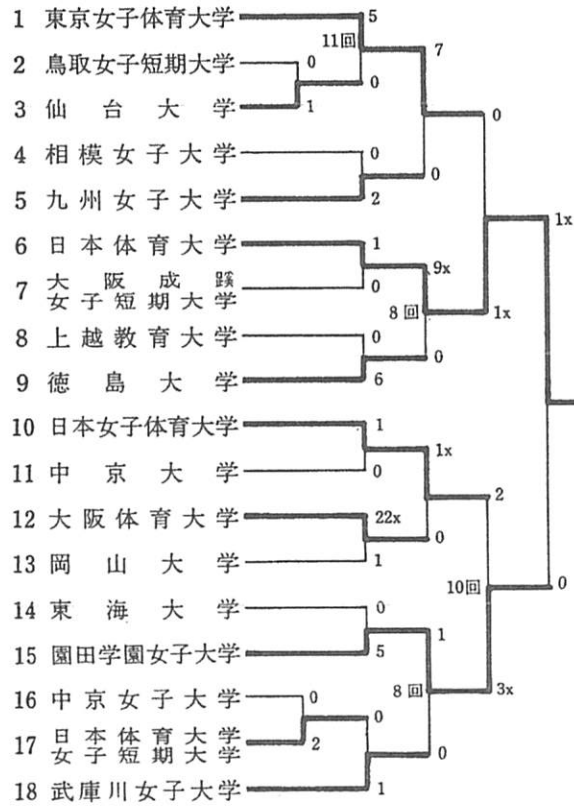
第22回

【男子】



日本体育大学

【女子】

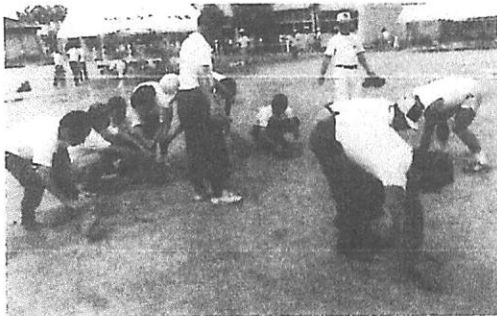


日本体育大学

▼男子大会2年連続優勝の日本体育大学



閉会式の真最中に大豪雨。その為、優勝旗・カップ・賞状等の授与は無惨にも打ち切られた。したがって、優勝旗等を持たない、雨の中のめずらしい記念撮影となった。



水浸しのグラウンドを整備する大会役員

第2回
 全国中学校男子大会
 昭和62年8月23日～24日
 岐阜県羽島市総合運動場
 日ソ協記録委員 桑原貞秋

夜明けとともに降り出した雨も次第に雨足が強くなり、時折雷も鳴り響き、総合運動場での開会式も簡易保険保養センターに変更して行った。ただ、開会式に色を添えるべく練習を重ねてきた地元幼稚園児の鼓隊・ポンポン隊130名が、会場の変更により参加できなかったのが残念であった。

この雨も開会式が終わる頃にはあがり、試合開始時間を2時間30分遅らせ、球場も1球場増やし、第1日目の日程を無事消化した。